

岡山県の地震

令和2年(2020年)1月

目次

○岡山県及びその周辺の地震活動（1月）	
震央分布図及び断面図	… 1
概況	… 1
○地震防災メモ No.169	
100年以上に及ぶ一定品質の地震のデータが利用可能に －1919～1921年（大正8～10年）の地震の解析が完了－	… 2

●「岡山県の地震」は月1回発行し、岡山県及びその周辺の地震活動をお知らせするとともに、適宜、社会的関心の高い地震について解説します。また、「地震防災メモ」にて、地震、津波に対する防災等の知識の普及に努め、皆様のお役に立てることを目的としています。

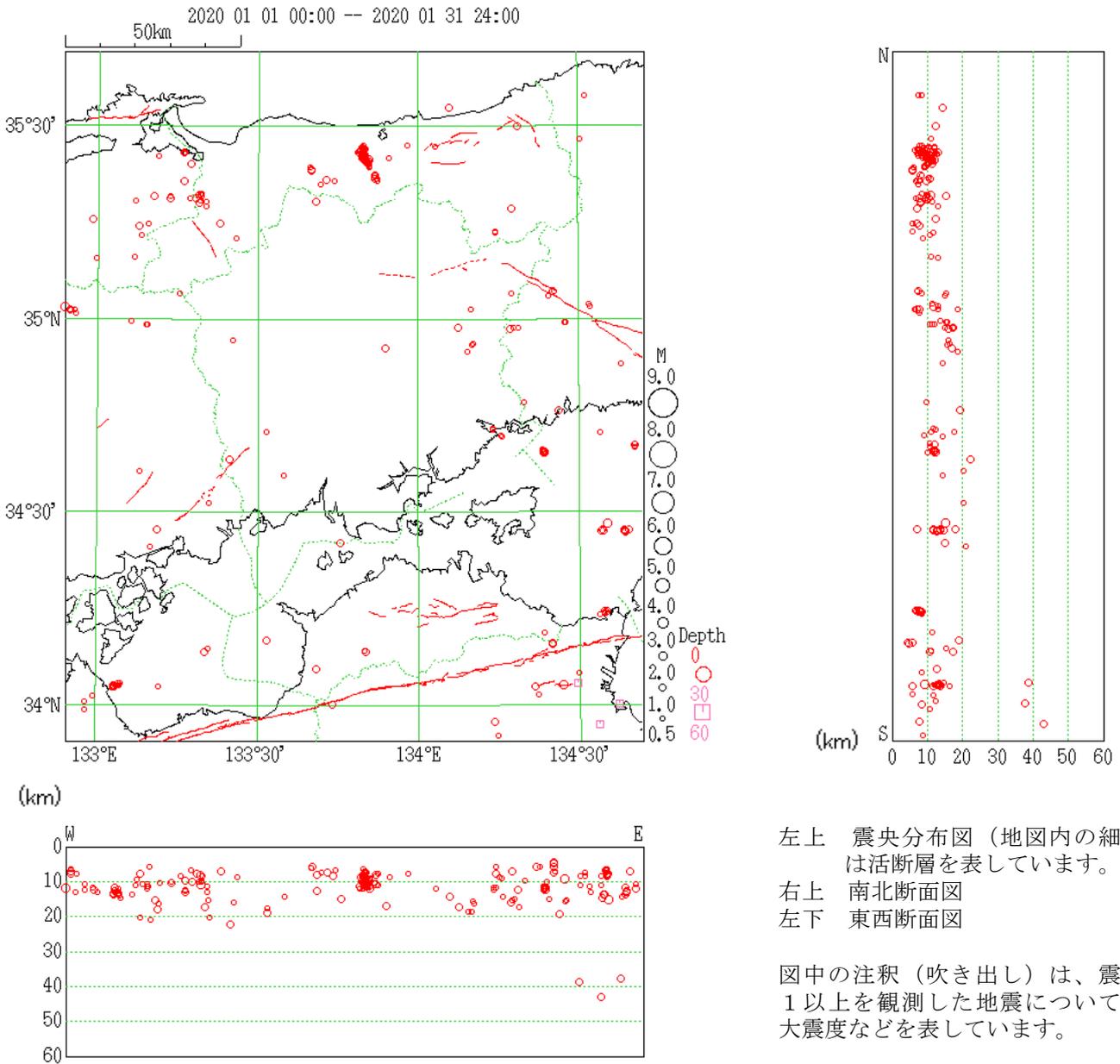
●この資料の震源要素、震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

●本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

岡山地方気象台

岡山県及びその周辺の地震活動(1月)

震央分布図及び断面図



概況

1月の概況

- ・上図の範囲内で1月に震度1以上の揺れが観測された地震は0回 (前月5回) でした。
- ・岡山県で1月に震度1以上の揺れが観測された地震は0回 (前月0回)、そのうち震央が上図の範囲内での地震は0回、範囲外での地震は0回でした。

100年以上に及ぶ一定品質の地震のデータが利用可能に —1919～1921年(大正8～10年)の地震の解析が完了—

気象庁では、日本周辺で発生した地震について長年にわたり観測と分析を行い、これまで発生した地震について、どこで、どのような規模で起きたかを詳細に記録した震源・震度等のデータベースを地震カタログとして公開しています。この地震カタログは、地震の調査研究などの基盤データとしてのみならず、それぞれの地域での将来の地震発生可能性の評価や、地震による被害想定など、国や地方での地震防災対策に必要な検討に用いられています。

気象庁では、過去に発生した地震のデータを整理し、大学等他機関のデータも活用するなどして地震カタログの改善を図り、これまで1922年までさかのぼって一定品質の地震カタログを整備しました。

1923年8月以前の震源決定は、気象庁の地震調査原簿（各地の検測値データを集約したもの）が関東地震で焼失したため困難となっていますので、1919～1921年（大正8～10年）の震源決定を行うために、以下の作業を実施しました。

- ・ 既往調査（宇津1982, 1985）と同様、各地の地震観測原簿（図1）をもとに他機関（東京大学、緯度観測所）の検測値も集約しました。この際、震源の決まらない検測値も収録し、余震発生の様子等が推測できるようにしました。
- ・ ISS（International Seismological Summary、国際地震センター（ISC）の前身）から、東京等の検測値を補足しました。

今般、1919～1921年（大正8～10年）の震源データの解析等が終了したことから、これらの震源・震度等のデータ（地震の数は375）を、1月17日（金）に地震カタログへ追加しました。

これにより、地震計による観測に基づく一定品質の震源・震度等のデータが、100年以上の期間で利用可能となり、過去100年間の地震活動の分析等が可能となりました。

図1 新潟測候所（現新潟地方気象台）の地震観測原簿
P波、S波到着時刻と振幅値などが記載されています。震度の欄の弱（震度弱キ方）は震度2を意味しています。

- 出典等（気象庁ホームページ）
- ・ 報道発表資料「100年以上に及ぶ一定品質の地震のデータが利用可能に」
<https://www.jma.go.jp/jma/press/2001/15b/eqcatalog1919.html>
 - ・ 震源・震度等のデータを収録した地震カタログ
震源データ <https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/bulletin/hypo.html>
震度データベース <https://www.data.jma.go.jp/svd/eqdb/data/shindo/index.php>